



五島・玉之浦町の漁師、1973年。撮影：河野裕昭

2018年

11月28日(水)▶12月18日(火)

写真展 油症事件と PCB 汚染を考える

日本最大の食中毒事件から50年——

1968年、西日本一帯に販売されていた米ぬか油にPCB・ダイオキシン類が混入していたことが原因で、1万人以上の人々が健康を害した「カネミ油症事件」。類似の事件は、1979年に台湾でも起きました。体内に入った毒物の影響で、いまなお多くの人々が苦しんでいます。

日本では2012年、ようやく被害者救済のための法律が制定されましたが、この事件が社会に投げかけた課題がなんであったのか、考える機会は少なくなっています。本展は、カネミ油症事件に関する唯一の写真集の著者である河野裕昭氏（1950-）による作品約50点（未公開作品含む）を中心に、油症事件とPCB汚染の過去から現在までをたどり、化学物質による負の影響に、わたしたちはどう向き合えばいいのかを考える場とします。

[展示内容]

I. カネミ油症事件 II. 台湾油症事件 III. 台南安順工場ダイオキシン汚染事件 IV. PCB・ダイオキシンとわたしたちの暮らし

長崎大学附属図書館
中央図書館
1F ギャラリー
(長崎市文教町 1-14)

入場無料

[平日] 8:30-22:00
[土日] 10:00-20:00

[共催]

日台油症情報センター

[協力]

カネミ油症被害者五島市の会
長崎本土地区油症被害者の会
台湾油症受害者支持協会

[後援]

長崎新聞社/西日本新聞社
/NHK 長崎放送局/NBC 長崎
放送/NCC 長崎文化放送
/九州朝日放送

[主催]

「油症事件とPCB汚染を考える
2018」長崎展実行委員会
代表：戸田 清
(長崎大学環境科学部)

[お問い合わせ]

電話：095-819-2784
担当：友澤 悠季